

## 日本株にひとつの底入れ期待？

## ～ISM製造業景況感指数にみる日本株

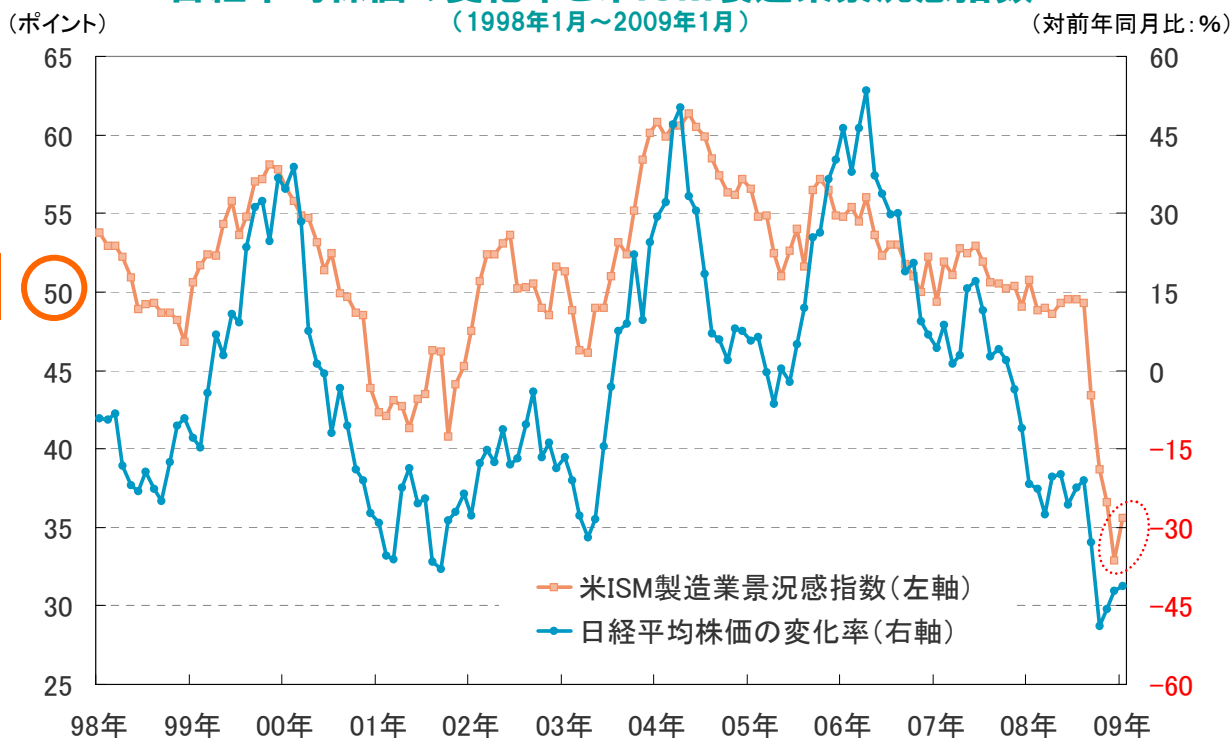
米ISM(供給管理協会)が今月2日発表した1月の製造業景況感指数は35.6と12月の32.9から改善しました。ISM製造業景況感指数は、米国の主要経済指標の中で、毎月最も早く発表されることから市場の注目度が特に高い指標で、50を上回ると景気拡大、逆に50を割り込むと景気後退を示唆しているとされます。

このISM製造業景況感指数と日経平均株価の変化率(対前年同月比)には、高い相関が認められます(相関係数は98年から08年までで0.80)。これは、日本経済の牽引役でもある国内の輸出関連企業の収益が、米国企業の景況感に影響されやすいことが背景のひとつにあると考えられます。

今後、ISM製造業景況感指数の底入れが確認されるようであれば、経験則的に日経平均株価の底入れ期待となるものと思われます。1月の製造業景況感指数の水準は依然、好不況の分岐点である50を下回っており、底入れを判断するには時期尚早であるものの、08年8月以降急速に悪化してきた動きに変化があらわれている点には注目すべきでしょう。

なお、足元では日本の景気や企業業績の先行きに対し悲観論が大勢を占めていると思われますが、だからこそ小さな変化や明るい話題を見失わないように注意していく必要があるのかもしれない。

## 日経平均株価の変化率と米ISM製造業景況感指数



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。